

文化財への道

くらがきの里

能勢氏の祖と伝わる丸山城主の頼国よりくにの弟には、倉垣庄加倉山の岩尾丸城主の頼基よりもともいたようです。倉垣庄にはもともと朝廷の儀式を担う丹波国弓削氏たんばのくに ゆげ一族の西田氏が居を構えていたそうで、永承5年頃(1050年)に倉垣庄に入った頼基みょうせきがその名跡(前任者の仕事)を継いだといわれます。

天皇の即位後の秋には初穂を神に捧げみずからも食すという「大嘗祭だいじょうさい」が行われました。その稲は、京より東の国(悠紀)と京より西の郡(主基)から献上されるといいます。治暦4年(1068年)の後三条天皇の大嘗祭のとき、占いにより、頼基の倉垣いなだ すきでんの稲田が主基田に選ばれました。その時主基頭しゅきがしらを務めた大江匡房おおえのまさふさが詠んだ歌、「くらがきの里に波よる秋の田は としながひこの稲にぞありける」が、『夫木集ふぼく』に掲載されました。(「としながひこ」とは、大嘗祭に献上する米を作る男子のこと。これは匡房が岡山の倉垣山麓さんろくで詠んだという説もあります)

匡房は歌人の赤染衛門あかぞめえもんの曾孫ひまごで、後三条・白河・堀河の三帝に学問を教えた学者でした。大江氏は能勢採銅所の役人である預職あずかりしよくを代々受け継いだ一族でもあったので、匡房もくらがきの里を訪れ、嘉村あたりに広がる黄金色の稲穂の波を誇らしく眺めたのでしょう。

昭和10年(1935年)、匡房の「くらがきの里」の歌碑が歌垣山山頂に建てられました。

家名を源から西田に改めた頼基の子孫の西田義綱よしつなは、娘を、久安4年(1148年)、多田源氏ゆきつなの多田行綱こしいに輿入れさせたそうです。岩尾丸城は、戦国時代天正7年(1579年)、西田頼盛のとき、織田信長の軍勢である明智光秀に付き従った丹羽長秀によって落城させられたと伝わっています。

文・平尾 悦子



大江匡房

人の動き [5月1日現在]

() 内は前月比

人	口	10,027 (-17)
	男性	4,855 (-7)
	女性	5,172 (-10)
世帯	数	4,561 (+11)
転入		25 (-30)
転出		36 (-21)
出生		5 (+4)
死亡		11 (-1)

4月中の交通事故発生状況

種別	能勢町	豊能町	合計
人身事故	4件	1件	5件
程度	死亡	0人	0人
	重傷	0人	0人
	軽傷	6人	1人
物損事故	30件	17件	47件
総件数	52件	18件	52件

横断歩道しっかり渡って事故防止

(能勢町交通事故をなくす運動推進本部)